



# CHAPTER 20

## アラームのモニタリング

Cisco Prime Collaboration Manager での障害の処理方法については、[障害管理についての項](#)に記載されています。

[Alarm Browser] ページには、[Monitoring] > [Alarms] を選択するとアクセスできます。ページの左側にある [Device Group] ペインを使用して、グループに基づきアラームをフィルタリングすることができます。詳細については、「[デバイス グループの管理](#)」を参照してください。

表 20-1 に、[Alarm Browser] の各アラームの次の情報を示します。

表 20-1 Alarm Browser

フィールド	説明
ID	アラームの固有の ID 番号。
Severity	<p>アラームの重大度が表示されます。アラームの重大度は、重大、やや重大、比較的 重大ではない、警告、クリアのいずれかです。</p> <p>アラームが関連付けられているイベントを表示するには、アラーム重大度にマウス を合わせ、表示されるクイック ビュー アイコンをクリックします。[Events of Alarm] ウィンドウが表示され、選択したアラームのイベントに関する次の詳細が示 されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [Description] : アラームの説明。</li><li>• [Source] : アラームをトリガーしたデバイス。</li><li>• [Time] : アラームが発生した日付および時刻。</li></ul> <p>このサマリー ウィンドウは、最新の 5 つのイベントのみがリストされます。すべて を網羅したリストを表示する場合は、[See Event History] をクリックしてください。 [Events of Alarm] ウィンドウで、次のリンクをクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• [See Event History] リンク : 選択したアラームに関連付けられたイベントを表 示します。</li><li>• [Monitor Endpoint] または [Monitor Session] リンク : [Endpoints Monitoring] または [Sessions Monitoring] ページを起動します。このリンクは、セッション およびエンドポイント アラームのみに表示されます。</li></ul>
Device IP	デバイスの IP アドレスを表示します。このリンクを使用して、ページ内にエンドポ イントまたはインフラストラクチャ デバイス ログを起動することができます。
Device Name	アラームがトリガーされたデバイスの名前を表示します。
Category	アラームのカテゴリを表示します。(例: セッション、エンドポイント、サービス インフラストラクチャなど)。
Name	生成されたアラームの名前。

表 20-1 Alarm Browser (続き)

フィールド	説明
Message	アラームに関するメッセージが表示されます。
Timestamp	アラームの発生日時を表示します。
Owner	このアラームが割り当てられた人物の名前を表示します。(名前が入力されている場合)。
Status	アラームのステータスが表示されます。

チェックボックスを使用して 1 つまたは複数のアラームを選択します。[Alarm Browser] に表示されたすべてのアラームを選択する場合は、一番上にあるチェックボックスを選択してください。詳細については、[アラームの更新](#)を参照してください。

[Alarm Browser] の先頭には、選択したアラームの数、アラームの合計数、[Refresh] アイコン、および [Alarm browser] 列をカスタマイズする [Settings] アイコンが表示されます。

Prime CM では、次のフィルタが事前定義されています。これらのフィルタには、[Show] ドロップダウン リストからアクセスできます。

- [All Active Alarms] : 重大度が重大、やや重大、または比較的重大ではないであるアラーム。
- [Assigned to me] : 各ユーザに割り当てられたアラーム。[Owner] 列には、各ユーザのログインに関する詳細情報が表示されます。
- [Unassigned Alarms] : いずれのユーザにも割り当てられていないアラーム。[Owner] 列には何も表示されません。
- [Cleared Alarms] : クリアされたアラーム。
- [Alarms in last X minutes or hours] : 直前の X 分または X 時間で新たにトリガーされたアラームまたは重大度を変更されたアラーム。重大度が重大、やや重大、比較的重大ではない、またはクリアのアラームすべてが表示されます。

独自のフィルタを作成することもできます。フィルタの作成方法の手順については、「[拡張フィルタ](#)」(P.B-4) を参照してください。

## アラーム詳細の表示

[Alarm Browser] ページ ([Monitoring] > [Alarms]) では、左端にある矢印をクリックするとアラーム詳細を表示できます。このページに表示されるのは、個々のアラームに関する詳細です。

表 20-2 は、[Alarm Browser] に表示される詳細情報をまとめたものです。これらの情報は、2 分間隔で更新されます。

表 20-2 アラーム詳細の表示

セクション	フィールド	説明
General Info for Endpoints Alarms	Creation Time	アラームが作成された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM/PM)。
	Category	アラームのカテゴリ (エンドポイント)。
	Description	トリガーされたアラームの内容。
	Is Acknowledged	対象ユーザがこのアラームを確認済みであるかどうかが表示されます。
	Last Modified Time	最後にアラームが修正された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM または PM)。
	Source	アラームの発生原因となったデバイス。
	Severity	セキュリティのレベル: 重大、やや重大、比較的重大ではない、警告、クリア、情報。
	Previous Severity	最新のポーリング サイクル後のアラームの重大度。
	Name	デバイスのホスト名。
	IP	デバイスの管理に使用される IP アドレス。
	Platform	エンドポイント モデル (ciscoCTS500 など)。
	Serial	エンドポイントのシリアル番号。
	Discovered	エンドポイントが最後に検出された日時。
	Software	デバイスで実行中のソフトウェア (IOS、CatOS、CTS など)。
	Version	デバイスで実行されているソフトウェア バージョン。
	email	エンドポイントで定義されている E メール アドレス。
Phone Number	エンドポイントで定義されている IP Phone の詳細。	
Server	エンドポイントが登録される、Cisco Unified CM サーバのホスト名。	

表 20-2 アラーム詳細の表示 (続き)

セクション	フィールド	説明
General Info for Session Alarms	Session ID	セッション ID。
	Session Subject	スケジューリングしたときに指定されたセッションの詳細。アドホックのポイントツーポイントセッションの場合は、エンドポイント名が表示されません。
	Session Status	セッションのステータス (進行中、完了など) を表示します。
	Session Start Time	セッションの開始時刻。
	Creation Time	アラームが作成された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM/PM)。
	Category	アラームのカテゴリ (セッション)。
	Description	トリガーされたアラームの内容。
	Is Acknowledged	対象ユーザがこのアラームを確認済みであるかどうかが表示されます。
	Last Modified Time	最後にアラームが修正された日時 (月、日、年、時、分、秒、AM または PM)。
	Owner	このアラームが割り当てられた人物の名前を表示します。(名前が入力されている場合)。
	Severity	アラームの重大度。
	Previous Severity	セッションがクリア状態の場合、クリア状態が表示される前のアラームの重大度。  例として、セッションの実行中に「やや重大」アラームがトリガーされた場合を考えます。セッション完了後、セッションアラームは自動的にクリアされます。このセッションにおけるアラームの直前の重大度は「やや重大」なので、この場合は [Major] と表示されます。
Messages	ログメッセージから取得されるデバイス情報。  (注) オーディオ拡張ユニット、補助制御ユニットまたはマイクの任意のエンドポイント (CTS) ペリフェラルアラームがある場合、Cisco Unified CM サーバで対応する CTS 設定をチェックして、接続される CTS ペリフェラルと一致するか確認します。	
Annotate	注釈を新たに追加する場合は、[Annotate] をクリックします。注釈を入力した後、[Submit] をクリックすると、その注釈を保存して表示することができます。その注釈を保存せずにページを閉じる場合は、[Cancel] をクリックします。	

## アラームの更新

[Alarms] ([Monitoring] > [Alarms]) ページから、アラームの横のチェックボックスを選択し、[Alarm Browser] ページ上部のいずれかのタスクをクリックして、アラームを変更できます。

- [Change Status] : アラームのステータスを次のいずれかに変更します。
  - [Acknowledge] : アラームを認識して、[Alarm Summary] ページで非表示にできます。アラームは Prime CM に保存されるので、アラーム検索機能を使用して、認知済み (Acknowledged) のすべてのアラームを検索できます。
  - [Unacknowledge] : すでに確認されたアラームの確認済みステータスを解除できます。
  - [Cleared] : 選択したアラームがクリアされます。アラームが、[Alarm Browser] から削除されます。

- [Assign] : 選択したアラームで、次の作業を実行できます。
  - [Assign to me] : デフォルトで、管理者に割り当てられます。ユーザは変更できません。
  - [Unassign] : 対象ユーザの名前からアラームの割り当てが解除されます。
- [Annotation] : 選択したアラームに対して注釈を入力したら、[Submit] をクリックします。入力した注釈は、アラーム詳細とともに表示されます。

## アラームの概要の表示

Prime CM クライアント ページ下部にある [Alarm Summary] は、現在 Prime CM により検出された重大、やや重大、比較的重大ではないの各アラームの合計数を表示します。

アラームは、各要素の現在の障害または状態を表したもので、1 つ以上のイベントにより生成されます。アラームをクリアすることはできますが、イベントは残ります。アラームの詳細については、[障害管理について](#)を参照してください。

アラームのカラー コードは、次のとおりです。

- [Red] : 重大なアラーム
- [Orange] : やや重大なアラーム
- [Yellow] : 比較的重大ではないアラーム

[Alarm Summary] にマウスを合わせると、システムに表示される次の各デバイス タイプの重大、やや重大、比較的重大ではないの各アラームの数をリストする、ポップアップ ウィンドウが表示されます。

- [Endpoint] : すべてのエンドポイントのハードウェア アラーム (ペリフェラル エラー) の合計数。
- [Service Infrastructure] : コール/セッション制御 (Cisco Unified CM および Cisco VCS)、管理 (CTS-Manager および Cisco TMS)、マルチポイント スイッチ (CTMS)、およびマルチポイント コントロール ユニット (Cisco TS、Cisco MCU) におけるアラームの合計数。
- [Session] : (セッションの一部をなす) エンドポイントおよびネットワーク アラーム (ジッター、遅延、およびドロップ) の合計数。過去、実行中、詳細のセッションのセッション アラームの動作については、[\[Video Collaboration Sessions\] テーブル](#)を参照してください。

Prime CM では、ネットワーク デバイスで発生したイベントやアラームのモニタは行われません。

[Alarm Summary] の [Network Devices] リンクには常に 0 と表示されます。

[Alarm Summary] ツールバーで、[Critical]、[Major] または [Minor] リンクをクリックして、すべてのデバイス タイプの重大、やや重大、比較的重大ではないのアラームをすべて表示することもできます。選択した重大度アラームが、[Alarm Browser] にリストされます。

